

森林 レンジャー がゆく

(21)

トウキョウサンショウウオが増えますように

今年も2月下旬ごろから、あきる野の里山に生息する希少な両生類「トウキョウサンショウウオ」の産卵期が始まります。

土地利用の変化などによる産卵場所の減少やアライグマの捕食などにより、個体数や卵のうの数が減少しているため、様々な保護対策が必要とされています。水田、池、湿地などのビオトープを復活させることも一つの対策になります。そこで、市内の良好な自然が残っている場所に池をつくってみました。この池は、里山にある沢沿いの雑木林の中で、自然に水が溜まるような場所を探し、昨年の

夏に穴を掘ったものです。そして、秋にかけては、水量の変動を確認しながら、何回か整備を行い、冬になつてからは、産卵期に向けて、池には手を加えず見守っています。

かつて、トウキョウサンショウウオは市内に広く分布していましたが、現在はそれぞれの分布域が繋がっていない、狭い範囲にしか生息していません。そのため、水の流れがない池などの産卵に適した環境をつくっても、利用してくれるまでに時間がかかる可能性があります。しばらくは、トウキョウサンショウウオがやって来なくても、そのうちに産卵場所として利用してくれることを願うしかありません。

しかし、池などのビオトープは他の生き物にとっても良い生息環境になるため、ビオトープをつくることには意味があると思います。今回つくった池の中で

は、すでに絶滅危惧種のツチガエルやトンボのヤゴなどを確認しました。

皆さんも、あきる野の自然、あきる野の希少な生き物のために、具体的にできること、例えば、自宅の庭先などに生き物に優しい環境をつくってみてはいかがでしょうか。

(パブロー)



トウキョウサンショウウオ



昨年つくったビオトープ(池)。大きさは1×4メートル、最高水深は約30センチメートル。